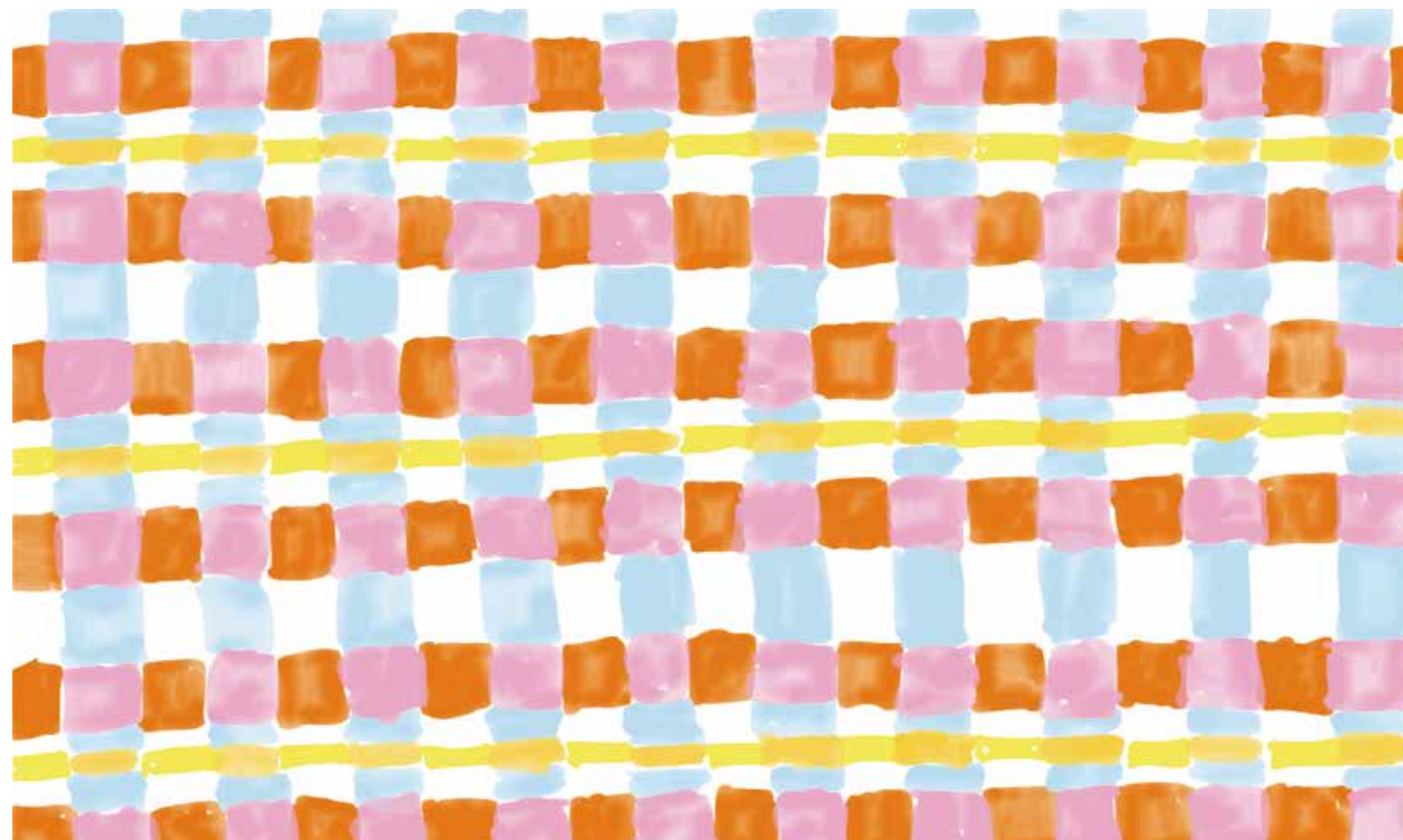




一般社団法人タウンスペース WAKWAK

## 子どもから高齢者までの切れ目のない支援づくり



はじめに

## -ごちゃませを創り出す-

本レポートはWAM助成（社会福祉振興助成事業）を受け、大阪府高槻市富田地区を拠点に実施した「子どもから高齢者までの切れ目のない支援」を生み出そうとする実践の1年目の取り組み報告である。

1年は本当にあっという間で取り組みがどれほど実ったかというとまだまだ心もとないのが現状である。ただ、2年間の取り組みの後には次の芽が育っているであろう確信がある。

2年目の後に当実践を論文としてもまとめご報告させていただくことをお約束し、初年度のレポートではそのエッセンスをここで述べたい。

キーワードは、「多様な参加を促す」、そこで「支える⇔支えられるの一方的な関係ではない双方向の関係性をつくる」、最後に「仕掛けをとおして“ませる”=ごちゃませをつくる」である。

当事業では、子ども、子育て層、高齢者、海外留学生、地域住民などそれぞれのカテゴリーを対象とした事業を生み出すことからはじめた。そこにスタッフとして携わっていただいたのは地域住民をはじめ老人会、自治会、近隣の大学生などさまざまなまちづくりの「担い手」である。大切にされたのが「支える⇔支えられるの一方的な関係ではない双方向の関係性をつくること」である。例を挙げるなら、子どもの居場所に参加していた子どもたちが別の場面「わくわく食堂」ではイベントの進行や発表もし参加者へ多くの感動を届けた。ある場面では支えられることもあるが、また、別の場面では主人公としてまちを変える主体者として関わる。そんな双方向の関係性を様々な事業を連動して生み出そうと着想した。

そして、地域の大会イベントであるのべ1600人が参加した「盆踊り」や同じく1000人以上が参加した「わくわく食堂」では、それら多様な層の住民をこうした仕掛けをとおして“ませる”ことで多世代がごちゃませに交わる交流拠点を生み出した。

地域には多様な住民が住んでいるが、当然のように何もしなければ交流が生まれることめずらしい。例えば、地域の中に集会所があってもそこに仕掛けがなければ閑古鳥が鳴いたままである。そんな状況は日本各地いたるところで起こっている。

交流が生まれるには仕掛けを生み出し、ハブとなる場（人や組織）が必要である。

タウンスペース WAKWAK はまさにその仕掛けを生み出す場でもある。特徴的なのはいわゆるテーマ型といわれる組織と地縁組織の両方が融合した組織である。テーマ型とは多くのNPOなどを例に挙げると高齢者支援、障がい者支援などテーマをもとに支援を行う組織である。その意味でWAKWAKは子どもから高齢者まで多様な層の支援をテーマにした支援をしている。一方で長年の市民運動を行ってきた背景から地縁組織として、ここで紹介する自治会の設立や盆踊りなどの地域イベントの事務局も担っている。つまりそれら両方の機能を担うめずらしい組織体である。

前置きが長くなったが、ここでは初年度の取り組みの様子、それらを生み出す組織がどのようなものか、そのご報告・紹介をしている。このレポートがこれまで当事業をご支援いただいた、たくさんの方々へのご報告となること、この取り組みのひな型が他地域の課題解決の一助になることを切に願っている。当事業にご支援いただいているすべてのみなさまへ感謝申し上げます。

## もくじ

はじめに - ごちゃまぜを創り出す -	1
<b>一般社団法人タウンスペース WAKWAK</b>	
法人理念・事業一覧	3
WAM 事業概要	4
<b>事業の様子</b>	
子どもの居場所	9
わくわくワールド	12
生活応援・緊急支援	16
高齢者安否確認とニーズ調査	18
富寿栄住宅建替え事業に伴う新自治会の設立	20
わくわく広場	22
富寿栄盆踊り大会復活	24
わくわく食堂を4年ぶりに開催	26
まなびカフェ	28
<b>一般社団法人タウンスペース WAKWAK</b>	
法人理念・事業一覧	30
ひとりぼっちのいないまちをつくる（地域、大学、地元学校園、企業との協働）	32
トピック1 マスメディアでの紹介 NHK 全国放送第1弾・第2弾	36
トピック2 政府広報において放映	38
トピック3 NHK Eテレバリバラに出演	40
トピック4 NHK かんさい熱視線 /NHK 青森あつぷるワイドにて放映	41
トピック5 全国に発信し他地域の課題解決の一助に	42
支援の呼びかけ	46
支えてくださった企業/団体/個人のみなさま	47
代表理事メッセージ	49
あとがき - 動くというのはそういうこと	50

ひとりぼっちのいないまちをつくる

# 一般社団法人 タウンスペース WAKWAK

## ビジョン（めざす社会）

“ひとりぼっちのいないまち”をつくる

## ミッション（存在意義）

- ・個人、団体、地域をつなぐハブとなり、出会うまちの“わくわく”を創造する場を創ります。
- ・制度から取り残され、社会から孤立させられている人たちに光をあて、多セクターとの共創により、誰にとっても住みやすいまちを創ります。

## アクション（行動・軸）

私たちは「ひとりぼっちのいないまち（社会的包摂）」の実現のため、「ローカリティ（包摂のコミュニティづくり）」と「インターメディアリー（中間支援）」の2つのベクトルで地域と社会に働きかけを行います。



## 事業一覧

タウンスペース WAKWAK では、「ひとりぼっちのいないまち（社会的包摂）」の実現のため、「富田エリア事業（ローカリティ）」と「中間支援事業（インターメディアリー）」の 2 つの柱で事業を展開しています。

### 1 富田エリア事業（ローカリティ）



高槻市富田地区を対象エリアに多様な団体のプラットフォームの役割を担いながら子どもから高齢者までを対象とした官民、多セクター連携による「切れ目のない支援」の構築をめざし多岐にわたる事業を行っています。

### 2 中間支援事業（インターメディアリー）



高槻市域全域を対象に広く多様な団体や人たちの協働によるネットワーク化を通じて、「中間支援」としての活動を行っています。

### 3 視察受け入れ／講師派遣事業

### 4 調査・研究開発事業

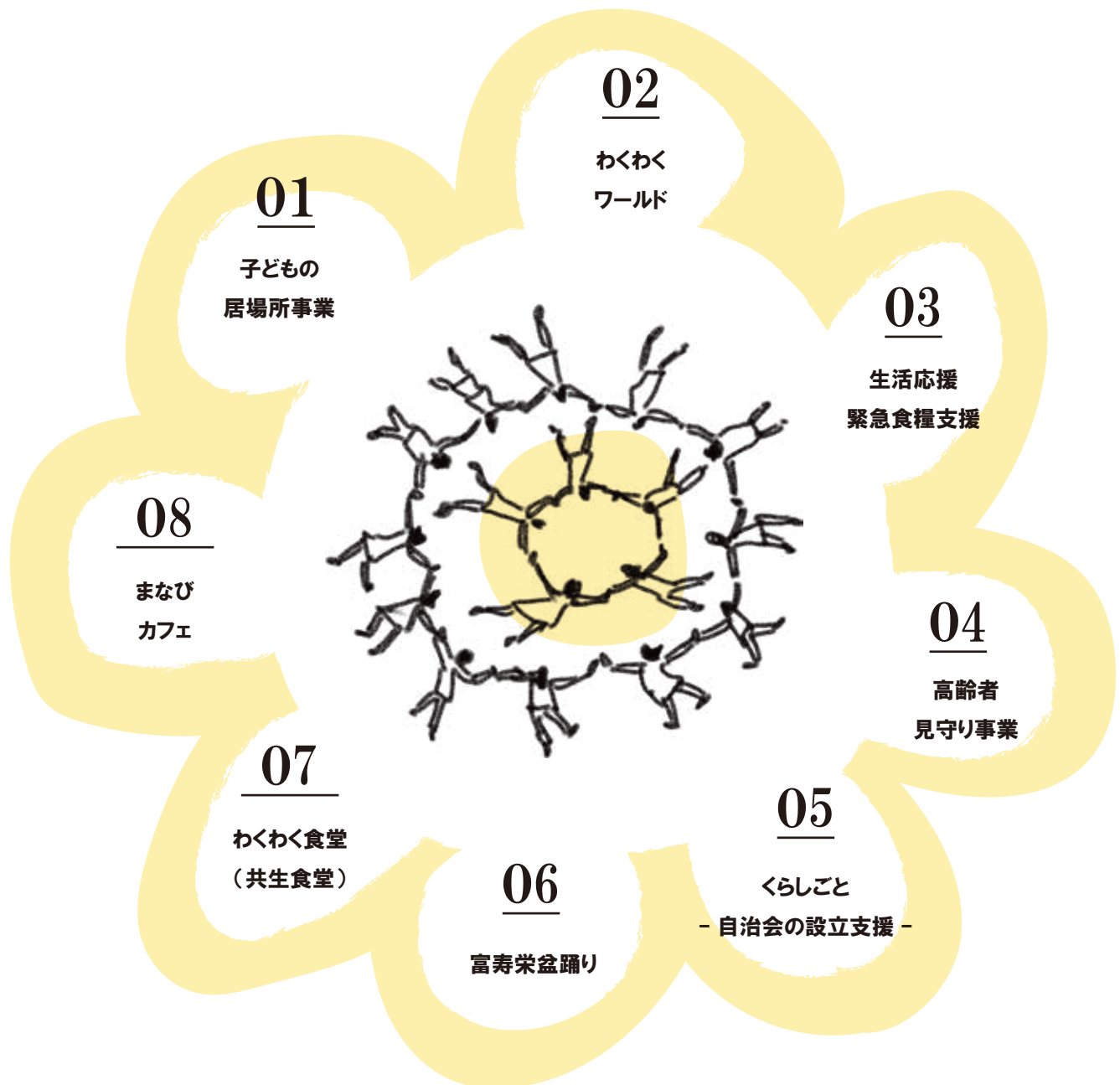
### 5 その他事業

# WAM 事業概要

## 子どもから高齢者の切れ目ない支援を多セクター共創で生み出す事業

子どもから高齢者までの切れ目ない支援を生み出すことを目的に、地縁組織から大学生までの多様な担い手と協働し既存事業の活性化、新規事業を創設し、子どもから高齢者までの一連の支援を生み出す。また、地縁組織、学校、行政、企業、大学等多セクターによるネットワーク化を行い、多様な分野の支援団体との相互連携や社会的不利を抱える層の包括支援を行うことで、民と民、官と民による誰も取りこぼさない地域を生み出す。また、並行して行政との連携により制度へとつなぐことで官民連携の仕組みを創設。これら実践を通じて得られた知見を大学等との協働研究により明らかにし、かつメディア等を通じて広く他地域へと波及する。

# 子どもから高齢者の切れ目ない支援を 多セクター共創で生み出す事業（WAM助成）



当事業では、WAM 助成（社会福祉振興助成事業）を通じて、子どもから高齢者までを対象とした官民、多セクター連携による「切れ目のない支援」の構築をめざした多岐にわたる事業を行っています。

## 事業の様子



## 多セクター共創プロジェクトとしてスタート



2023年6月26日、今年度第1回となる多セクター共創プロジェクト会議を開催。

これは、社会課題が複雑化多様化する中で、地域・家庭・学校・行政・大学・企業等が連携しながら解決を図っていかうと創られたタウンスペース WAKWAK 主催。

今回の会議ではコミュニティスペース NikoNiko を主会場にオンライン（ZOOM）をつないで地域関係団体、校区の小中学校・認定こども園関係者、大学、企業等関係者ら約30名が参加。

冒頭、プロジェクト座長である志水宏吉・大阪大学大学院教授から新しい多文化共生社会について紹介をいただいた後、WAKWAK 岡本工介事務所長兼業務執行理事から昨年度事業報告と合わせ2023年度の富田エリア事業・市域広域事業それぞれの方向性について提起。

富田エリアにおいてはWAM助成（社会福祉振興助成事業）の受託により、新たに「子どもから高齢者への切れ目ない支援事業」を立ち上げ、その仕組みの全国モデル化、市域エリアにおいては「子ども食堂を入口に、市域全域に地域・家庭・学校・行政・大学・企業等の分野を超えたネットワーク化」をめざし、官民・民民それぞれの連携を強化していくことを確認しました。

## 子どもの居場所がスタート



2023年5/10(水)、コミュニティスペースNikoNikoにおいて、「風の子文庫」主宰の朝日さんや子育て層の方々の力を

お借りし子育て層を対象にした文庫活動、子どもの居場所活動がスタートしました。

午前中には子育て層の保護者の方々が集まる場として、午後には小学生の放課後の居場所として宿題や本やおもちゃと共に過ごす時間を提供するものです。

1日目は盛況で、大人と子ども合わせて22人、幼児、小学生低学年、高学年、大学生、保護者等多世代が時間差で集まり、にぎやかでした。

子どもの居場所活動では、富田地区のオリエンテーションにたまたま来ていた大学生が低学年の宿題をみてくれ、「いつも家ではなかなかダラダラとしているのが、嬉しそうに教えてもらえて」と、お母さんが喜んでおられました。5年生は、自分たちで長机の準備をし、大学生がみている時は宿題をしていましたが、帰ってしまうと、時間もないので早々に切り上げて、なんと絵本を展示している棚から最近ご寄贈頂いた高槻の方の戦争体験の絵本を声を出して読み合っていたのには驚きました。

当事業は年間を通して毎週水曜日に午前は子育て層を対象にした文庫、午後からは子どもの居場所事業として行っています。また、不定期の土曜日には昼食づくりやおやつづくりなども行っています。

## 子どもの居場所ハロウィン



10月15日(日)は、風の子文庫 × WAKWAK 協働の子どもの居場所、ハロウィンの取り組み。毎週水曜日に行っている居場所のイベント版です。

風の子文庫朝日さんが中心となりベテラン保育士さん、文庫の保護者、地域の方々にご協力いただいで実施。



子どもたちは30人、大人は12人の総勢42人。子どもたちが4コースに分かれWAKWAK事務所はじめ富田のまちのスポットを練り歩き。

また、12月23日(土)にはクリスマス会も開催しました。

こうした文化に触れる体験はすごく大切でこうした企画をしてくださった関係者のみなさまへ感謝です。ありがとうございました。





## 子どもの居場所 6年生を送る会

風の子文庫朝日さんが中心となりベテラン保育士さん、文庫の保護者、地域の方々の大人 12 人にご協力いただいで実施。それぞれ、カレーライスを作るチーム、オレオカップケーキを作るチーム、遊びを楽しむチームに分かれて活動しました。



3月20日（水・祝日）は、風の子文庫に来てくれていた小学6年生を送る会。

参加人数は、お家の予定の調整などもあり、当日を迎えるまではわからない中で準備。想定を上回る人数の参加でした。



6年生のみなさん、文庫活動を盛り上げてくれて、どうもありがとうございました。  
中学生になっても、時々、地域行事の様子を見にきてくださいねー♪



## わくわくワールド

2023年6月18日（日）午前11時からコミュニティスペース NikoNiko を会場に WAKWAK の初企画「わくわくワールドー世界旅行をしてみよう」の第1回がスタートしました。



この企画はコミュニティスペース Niko Niko 拠点に海外の留学生と子どもたちが食事を作り交流するという大阪大学の学生からの持ち込み企画による新たな事業です。

第1回参加の留学生はいずれも大阪大学に在籍のベトナム、中国、インド国籍等の大学生のみなさん。

定員15名限定でしたが家族含め総勢30人が参加して、今回のメニューはベトナムの「焼きフォー」づくり。参加した子どもたちは料理作りとゲームに別れ、料理作り班はフォーに入れる人参と小松菜を細かく切ってフライパンでいため、フォーとお肉を入れて最後はオイスターソースと砂糖、ベトナム醤油で作ったたれを混ぜ合わせて「焼きフォー」の完成。

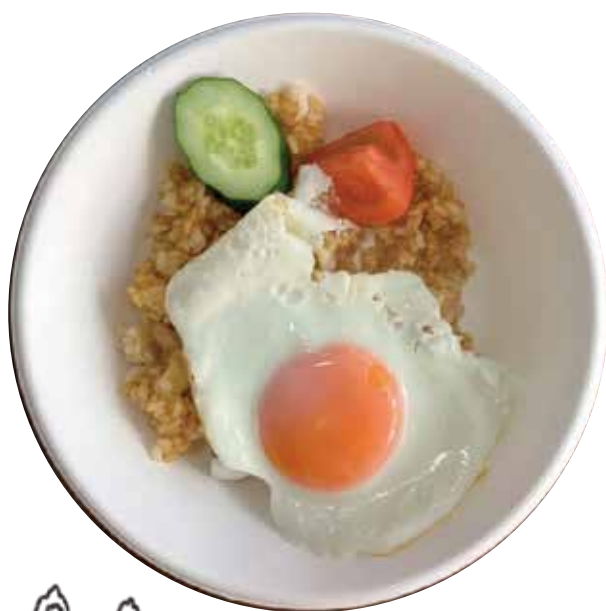
ゲーム班はインドからの留学生に「インドの言葉であるヒンディ語で名前を書く練習」をしてもらったり、中国からの留学生に中国語読みを教えてもらったり。

焼きフォーをお皿に盛り合分けて、みんなで美味しくいただき、ベトナムのお菓子も子どもたちで分け合い、楽しい時間を過ごしました。



## わくわくワールド（第2回）

コミュニティスペース NikoNiko を会場に「わくわくワールド」（第2回）を開催。



今回はインドネシア・マレーシア等からの阪大留学生が参加して、インドネシア・マレーシア料理をみんなで作って昼食。インドネシア料理は「ナシゴレン」というインドネシア風チャーハン。



マレーシア料理は「ピサンゴレン」という揚げバナナ。マレーシアでは代表的なお菓子です。



食事の後は、子どもたちと留学生が遊びながら楽しい時間を過ごしました。



## わくわくワールド（第4回）



2月10日は、コミュニティスペース Niko Niko を会場に今年度最後となる「わくわくワールド VOL4」を開催。

今回はスタッフ、子どもたちを含め 23 人が参加し「世界を冒険に出よう」をテーマに「世界のなぞなぞ」や「ゲーム」、そして料理作りを楽しみました。

ミャンマー油そばとデザートのお餅は子どもたちにも好評でお代わり続出。みんなで楽しい時間を過ごしました。





## 生活応援・緊急支援スタート



2023年5月28日(日)、3年に及ぶコロナ禍に加え相次ぐ物価高騰で家計が厳しくなっていることから、これまでのフードパントリーを拡大して富田富寿栄住宅入居者を対象に「生活応援・緊急食料支援」を実施しました。

主催したのは富田まち・くらしづくりネットワーク、富田富寿栄連合自治会。同老人会、富田支部、WAKWAK、社福つながりで構成された実行委員会。ボランティアスタッフは9時に会場の富田富寿栄西公園に集合し、提供食料の仕分け作業等の準備。

認定NPO法人ふーどばんく OSAKAからはレトルト食品、お菓子、飲料等126ケースの提供をいただき、イオンフードスタイル(旧ダイエー)摂津富田店で回収させていただいたフードドライブ食料品をそれぞれに仕分けをしました。

10時開始前から提供を希望する住民の方が参集し、37名の方に食料を配布。毎月継続して食糧支援を必要とする方の受付には27世帯の方が新たに登録されました。今日の配布食料重量は55,5KG。

今回の「生活応援・緊急食料支援」の目的は食料配布にとどまらず、要支援者への顔の見える支援体制の構築です。



## 生活応援・緊急支援スタート（第4回）



11月28日（火）午後1時半から富田富寿栄住宅入居者を対象とした「物価高騰・生活応援緊急食糧支援」を実施しました。

今年の2月から開始し5月、7月に続いて4回目の開催です。

主催は富田まち・くらしづくりネットワーク、富田支部、A棟自治会を含む地元連合自治会、老人会、WAKWAK、社福つながり等各実行委員。

今回の配布会場は富寿栄住宅A棟エントランスで、生活相談も同時に開催しました。

配布食糧は認定NPO法人ふーどばんく OSAKA からアルファ米、日清カップ麺、味覚糖お菓子、バウムクーヘン、飲料など41ケースの寄贈をいただきました。



加えて WAKWAK に寄贈されたお米 90kg 含め、一世帯当たり米 2 kg、食糧品 1,5kg、生活日用品 1kg など合わせて 4.5Kg 分。

配布希望登録 46 世帯+新規登録 9 世帯の計 55 世帯のみなさんに合計 247.5Kg を配布させていただきました。

引き続き顔の見える切れ目のない支援の継続を図ります。



## 高齢者安否確認とニーズ調査

9月18日の敬老の日にあわせて、地元の富田富寿栄老人会とWAKWAKとで高齢者の安否確認とニーズ調査を実施。



今回はコミュニティスペース NikoNiko を会場に 18日と19日の2日間、約70名の高齢者を対象に安否確認もかねて粗品（トイレットペーパー）を配布。老人会の役員さんが主体となって来られた会員さんにお茶やコーヒーを提供。「困ったときに相談できる場所や社会とのつながり（外出機会）、交流（ふれあい喫茶）等」についてアンケート調査も実施しました。

そこでは、コロナ禍において交流が激減し、「人と話す機会が欲しい」「交流できる場所がほしい」などの声が見えてきました。

その後、お茶やコーヒーでしばらく歓談。コロナ禍で長く途絶えていた対面での交流機会も復活してきました。

その後、新春交流会などのイベントも復活、役員さんが主体となって様々な取り組みをして頂きました。





## 高齢者ふれあいきっさ

年度末の3月28日（木）子どもから高齢者までの切れ目のない支援にむけコミュニティスペース NikoNiko を活用してふれあい喫茶試行事業を実施。



対象となる会員は 82 名です。来られなかった会員さんには役員さんが手分けして訪問。喫茶スペースも設置されて老人会役員さんによるコーヒーとお茶の提供も行われました。

来られた会員のみなさんもお互いに顔を合わせて近況や昔話に花が咲き、会場となった NikoNiko は一日和やかな雰囲気になりました。



## 富寿栄住宅建替え事業に伴う新自治会の設立①

1962年に最初の棟が建てられた富田富寿栄住宅はすでに60年を超え、地域内には19棟508戸の市営住宅が整備されてきました。当然のことながら、老朽化、浴室未設置、バリアフリーや耐震未対応など多くの課題を抱えてきましたが、2018年6月に高槻を震源とする震度6弱の大阪府北部地震が発生し、富寿栄住宅も大きなダメージを受けました。

発災当日には富寿栄住宅2棟に構造上の亀裂が発生し倒壊の恐れがあることから住民は緊急避難ちいおうきの避難所生活を余儀なくされ、取り壊しが決定されました。



2021年3月に高槻市は「市営富寿栄住宅建替基本計画」を策定。2022年6月から第一期工事としてA棟91戸の建設着工が開始されました。

WAKWAKも「未来にわたり住み続けたいまち」をコンセプトに高槻市と協働しながらこれらの取り組みを支援するとともにハード・ソフト両面にわたるコミュニティ再生事業として事業を推進してきました。



## 富寿栄住宅建替え事業に伴う新自治会の設立②



2023年9月には富寿栄住宅入居者のうち第一次91戸移転入居が完了。新しく整備されたA棟入居に並行して自治会設立への取り組みを行いました。これまで富寿栄住宅には自治会が整備されている棟はわずかでしたが、建替えを機に住民自治の確立と2年後に続く第二次移転（B・C棟）も見据えてコミュニティ再生へ一歩を踏み出しました。

新自治会は富寿栄住宅A棟自治会として10月14日（土）に設立総会を開催。総会には入居者はじめ50数名が出席。来賓として高槻市からは都市創造部住宅課長、地元の富田富寿栄連合自治会長にご出席いただき、設立経過報告・役員体制・事業報告・予算案いずれも質疑の後承認いただきました。



新自治会では会長・副会長・会計・会計監査に加え、1～9Fの各階に班長を選出、入居者全員の自治会加入を実現しました。また、各階の班長が自治会費の徴収や清掃当番を行うほか、入居者全員から要支援情報も集約し、一人暮らし高齢者や障がい者をはじめ安心見守り体制等の整備を進めています。新自治会事務局はタウンスペース WAKWAK が担い、一部業務を事務受託、自走する仕組みをめざします。



## わくわく広場 実践編①「児童養護施設プログラム」

2024年3月3日（日）はわくわく広場の実践編①として学生さんが主体となって児童養護施設を対象とした体験活動を開催しました。

当日は児童養護施設のグラウンドをお借りし、年長から小学3年生を対象に前半は大学生スタッフが考えた、手形ペイントプログラムや運動系プログラムを子どもたちが選んで遊び、後半はみんなでどろんこ遊びをしておやつに焼き芋をする内容となりました。

前日まで寒かったのですが、この日は暖かさを感じられた気温で思いっきり遊ぶにはもってこいの天気でした。



このプログラムでは子どもたちが思いっきり遊び、その遊びにスタッフがとことん付き合うことで、人に甘えを受け止められる安心感を体験してもらうことを大切にしています。

当日は準備をしている時から、子どもたちがとても楽しみにしてくれているようで「今日なにをするん?」「準備手伝うで」などと声をかけてくれました。

遊びがスタートすると、子どもたちは自分で選んだ遊びをおもいっきり楽しんでいる様子が見られて、途中で「こっちもしたい」と声上がり、最終的には全員が全てのプログラムに参加してくれてあっという間に時間が過ぎていました。帰り際には、参加できなかった子どもたちから「高学年のプログラムもやってよ」とリクエストがあり、次年度以降、考えていきたいという宿題となりました。

施設の職員の皆様、関係者の皆様、スタッフとして関わってくださったメンバー、どうもありがとうございました。



## わくわく広場 実践編②「子どもたちの集団遊びプログラム」

3/13（木）子どもの居場所の活動として、集団遊びプログラム「みんな遊び『わ』」を開催しました。コミュニティスペース NikoNiko にて毎週木曜日に開催されている子どもの居場所事業。

居場所を利用してきている小学生の子どもたちを対象に、大学生が集団遊びのプログラムを企画・実施しました。



コミュニティスペース NikoNiko の近くに位置する富寿栄公園（通称：三角公園）にて、フラフープくぐり、ドッジボール、手繋ぎ鬼ごっこをしました。10 数名の子どもたちと、大学生サポーター3名に参加していただき、とても賑やかなプログラムとなりました。



公園で遊んでいると、飛び入りで参加してくれる子どもたちもいました。参加した子どもたちからは、「また参加したい！」「もう1回ドッジボールしたい～」などの声を聞くことができました。このプログラムでは、学年の垣根を超えて友達とつながることの楽しさや、つながりの「輪」を大切にしたいとの思いから、「つながり」をキーワードとした遊びを実施しました。



短い時間でしたが、みんなで体を動かして、たくさん笑って、温かい時間を共有することができました。また、この取り組みは3月末まで行っていきます。

NikoNiko で開催されている子どもの居場所から、これからも素敵な「わ」が広がることを願っています。



## 富寿栄盆踊り大会復活

「富田の盆踊り」として親しまれてきた江州音頭を「コミュニティ再生とまちづくり」として復活したのが2010年。

WAKWAKをはじめ富田地域の自治会・関係団体等が参画する「富田まち・くらしづくりネットワーク」を中心とする実行委員会によって2019年の第10回開催後、新型コロナ禍での3年間の中止をへて4年ぶりに待ちに待った「富田富寿栄盆踊り大会」が開催。



9月2日当日は朝9時から会場となる富田富寿栄公園で昨日に続いて会場設営。午後5時半から毎回、この祭りに出演いただいている「つるちゃん」こと塩崎おとぎ紙芝居博物館会員鶴谷光子さんによる「昔なつかしい街頭紙芝居」で子どもイベントがスタート。会場には5時前から親子連れが来場しはじめ開始5時半には各出店ブースに長蛇の列ができ大賑わい。街頭紙芝居にも就学前の小さな子どもたち、小学生らがつるちゃんの軽妙な語り口にすっかりとりこに。



主催者・ご来賓あいさつが始まる6時半には会場内もびっしりの人出で最高潮に。濱田高槻市長、笹内市議会議員、辻元参議院議員はじめ各級議員のご挨拶と紹介をうけて、いよいよ地元出身の天光軒新月ご一行による江州音頭がスタートしました。4年ぶりの開催となった祭りには前回は大きく上回るのべ1,600人のみなさんにご来場いただきました。ご来場者の自転車整理と誘導等警備スタッフもうれしい悲鳴。音頭の大太鼓を打つのは地元の富田富寿栄老人会有志のみなさん。生の大太鼓と音頭がこの祭りの自慢です。8時を過ぎると家族連れに変わって踊りのみなさんが中心になり、閉会の9時まで音頭に合わせた踊りの輪が続きました。

## わくわく食堂を4年ぶり開催

2020年2月に開催準備直前に中止となった「わくわく富田子ども食堂」を4年ぶりに復活。地域に住む子どもからお年寄りの方までがごちゃごちゃに交わる交流の場所で誰でも参加できる共生型食堂です。いわば、子どもから高齢者までのそれぞれの取り組みをつなぐ集大成。6回目の開催となる今回も地域・家庭・学校・



行政・大学・企業との連携による多セクター共創、そして子どもが主役となり多くのボランティアに

よって創り上げる子ども食堂として実施。

クラシックライブや様々な文化体験を通して「地域に“つながり”の橋をかける」がテーマです。

今日は午前9時にボランティア従事者・スタッフが集合してミーティングと会場設営準備。

11時から富田ふれあい文化センター大ホールを会場にオープニングイベント。



主催者代表挨拶の後、来賓を代表して濱田剛史市長から

ご挨拶を受け、「100万人のクラシックライブ」と富田小・赤大路小6年有志による「わたしからはじまるPeace Action」からスタートしました。

「100万人のクラシックライブ」は音楽を通じて人のつながりを届けようと今回は阪急阪神HD（株）および阪急阪神未来のゆめ・まちプロジェクトの協賛により実現。

吉岡麻梨さんのピアノ、森田真梨恵さんのバイオリンによる演奏の後、富田小・赤大路小6年生有志が「平和」や「だれもが安心できる社会」日ついて発表。最後は生演奏をバックに「ビリーブ」



を手話付きで合唱しました。プログラム2番目は

風の子文庫による「子どもの貧困」をテーマにしたケイト・ミルナー作「きょうはおかねのないひ」（合同出版）の絵本の読み聞かせと富田子ども食堂の歩みの発表。





続いて、「つるちゃんの街頭紙芝居」の公演。軽妙なかけあいに小さな子どもたちも食い入るように見入っていました。

並行して、12時からお隣のサニースポットでカレーライスを提供。前日からボランティアスタッフのみなさんが仕込みをさせていただいて、大人300円・子ども100円で予定の300食をすべて提供。

午後からは乳幼児向けの「よちよちコーナー」で元保育所スタッフさんたちによるわらべ歌やお話し会。



「ふれあい遊びコーナー」では富田小・赤大路小6年生有志によるペットボトルボーリング、工作、魚釣りゲーム、「わくわくワールド」では大阪大学留学生等による世界地図輪投げなど盛りだくさんのコーナーで盛況でした。

ホール前では「地域に広がる第三の居場所ア

クションネットワーク」の活動もパネル展示。午後3時に閉会しました。

今回のわくわく子ども食堂では富田小・赤大路小6年生の子どもたちが参加者受付やオープニング舞台司会、遊びコーナーも担当していただき大活躍。延べ来場者数は945名、ボランティアスタッフ従事者195名で総数1,140名の参加となりました。



## まなびカフェ①—富田物語

コミュニティスペース NikoNiko を拠点にさまざまな社会課題についての学びを多様な人たちとゆるやかに学んでいく企画「まなびカフェ」

7月夏休みを利用し、富田地域に関わる教育保育関係者、ボランティアスタッフ等を対象に富田地域のことをもっと知り理解してもらい取り組みとして「富田物語—わたしものがたりと出会う」を開催「教員の働き方改革」等で平日夜の開催が難しくなったため、夏休み期間の26日（水）午前中に開催。新しく富田地域関連施設に赴任された方ふくめ約50人が現地コミュニティスペース NikoNiko と学校施設等をオンラインでつないで実施。

前半は「地域で培ってきた保育・教育 つながりをつりかえる」をテーマに岡井寿美代副代表理事が講演。後半は「マイノリティ発の実践を日本全国のフロントランナーに」と題して岡本工介業務執行理事兼事務局長が講演。

「富田ものがたり」の副題「わたしものがたりと出会う」には、知識だけではなく我が事として課題と出会ってもらい意味が込められています。



## まなびカフェ②ーヨガで体と心のコントロールを学ぶ

3月14日（木）には訪問事業に携わる方々を中心に子育て層を対象にヨガの講座を行いました。顔や身体の動きについて、簡単にレクチャーを聞いたあと、実際に動かして効果の変化を試してみました。以下体験レポート。



顔の筋肉である表情筋を鍛えることで、顔の豊かな表情を作り出すことができます。訪問事業では保護者の人に対する表情は本当に大切です。はつらつとした笑顔でお話を聞いてもらえるよう、皆さん真剣に表情筋を動かしていました。次に体を動かし、自分はどこまでなら動かせるのか、これ以上動かすと痛いのでここまででやめておこう…など、これが体との対話なのだと感じました。また、どちらにおいても大切なのが呼吸でした。

みまもりの訪問、ひいては人間関係でも同じことが言えるのではないかと感じました。

実際に訪問でお話をしていく上で、保護者さんに対して焦らずゆっくりと気持ちを落ち着けてお話しすることで、保護者さんも心を開けやすくなる。出来るだけ色々な話を聞きたいと焦る気持ちを落ち着けて、ゆっくりと話をすることが子育てに焦る保護者さんの気持ちを解きほぐす近道なのではないかと思いました。講師の Tomomi 先生、ありがとうございました。

そのほかにもメディアリテラシー連続講座の開催など、多様な層に対してまなびカフェを開催しました。





ひとりぼっちのいないまちをつくる

# 一般社団法人 タウンスペース WAKWAK

## ビジョン (めざす社会)

“ひとりぼっちのいないまち”をつくる

## ミッション (存在意義)

- ・個人、団体、地域をつなぐハブとなり、出会いやまちの“わくわく”を創造する場を創ります。
- ・制度から取り残され、社会から孤立させられている人たちに光をあて、多セクターとの共創により、誰にとっても住みやすいまちを創ります。

## アクション (行動・軸)

私たちは「ひとりぼっちのいないまち (社会的包摂)」の実現のため、「ローカリティ (包摂のコミュニティづくり)」と「インターメディアリー (中間支援)」の2つのベクトルで地域と社会に働きかけを行います。

## 事業一覧

タウンスペース WAKWAK では、「ひとりぼっちのいないまち（社会的包摂）」の実現のため、「富田エリア事業（ローカリティ）」と「中間支援事業（インターメディアリー）」の 2 つの柱で事業を展開しています。

### 1 富田エリア事業（ローカリティ）



高槻市富田地区を対象エリアに多様な団体のプラットフォームの役割を担いながら子どもから高齢者までを対象とした官民、多セクター連携による「切れ目のない支援」の構築をめざし多岐にわたる事業を行っています。

### 2 中間支援事業（インターメディアリー）



高槻市域全域を対象に広く多様な団体や人たちの協働によるネットワーク化を通じて、「中間支援」としての活動を行っています。

### 3 視察受け入れ／講師派遣事業

### 4 調査・研究開発事業

### 5 その他事業

地域・家庭・学校・行政・大学・企業などと協力しながら

# ひとりぼっちのいないまちをつくる!

## 1 地域との協働 まちづくりに住民の力を活かす

### 事業を支える住民のボランティア

子どもの居場所づくり事業をはじめ当法人の事業は多様な住民のボランティアによって支えられています。

こども食堂での地元校区民生委員児童委員中川さん親子による調理、わくわく食堂では、普段高齢者会食サービスのボランティアをされているボランティアサークル「ひまわり」の皆さんによる調理、元富田保育所の保育士さんによる「よちよちコーナー」、善太鼓の演奏、手話サークルトライアングルの皆さんによる手話うた、風の子文庫による絵本の読み聞かせや子どもの居場所、地元老人会による高齢者みまもり活動などなど。地縁組織ならではの、たくさんの住民の皆さんに支えられて事業の運営を行っています。





## 2 大学との協働 まちづくりに大学生の力を活かす

### 学校教員や保育士、福祉職を目指す 大学生や大学院生の力

これまで連携をいただいている平安女学院大学、大阪人間科学大学、関西大学に加え、新たに大阪大学との連携を図っています。



一つは「共創知」を生み出す場をテーマに産官社学連携による仕組「OOS(大阪大学オムニサイト)」の協定を2019年9月20日に締結しました。



もう一つは「未来共生イノベーター博士課程プログラム」の一環として大学院生が地方公共団体やNPOなどに出向き実践から学ぶ「公共サービスラーニング」の実習先となり、2019年10月からインターン生の受け入れがスタートしました。



子どもの居場所づくり事業には、将来学校教員や保育士、福祉職を目指す学生さんなどたくさんの大学生や大学院生がかかわってくれています。

様々な子どもたちと学生の時に関わり、そこで学んだことを現場に巣立った時に活かしてもらえたらと願っています。



# 3 地元学校園 「ゆめみらい学園」 との協働

## 「いまとみらい」

「いまとみらい」をテーマに総合的な学習の時間を通じて社会参画力の育成を図っている高槻市立富田小学校・赤大路小学校、第四中学校、富田認定子ども園の園児・児童・生徒が共生食堂「富田わくわく食堂」をはじめ多様な事業に携わって頂いています。



### 【ほっと Station 富田】

2018年、高槻市立富田小学校5年生の総合的な学習の時間の取り組みで、子どもたちが大阪北部地震による災害支援から学んだことを冊子化し、チャリティグッズとして制作。わくわく食堂に



において取り組みの発表とともに冊子のお披露目をしていただきました。

## 「社会の温度計をあげよう」

2019年、「レガシー」をテーマに高槻市立第四中学校3年生が地域の方々へこれまでの感謝を伝えるというテーマにてわくわく食堂の看板を作成し、届けてくれました。



2024年「社会の温度計をあげよう」をテーマに高槻市立赤大路小学校・富田小学校6年生有志による有志が100万人のクラシックライブとコラボ。



# 4 企業との協働

## 「SDGs」パートナーシップの実践

### 企業からの支援

この間、わくわく食堂へサンスター(株)による歯ブラシのご提供、TOA(株)や大阪ガス(株)によるワークショップ開催、ふーどばんくOSAKAやダイエーフードドライブ、丸大食品(株)、コニカミノルタ(株)による食品のご提供をいただいています。企業様のご支援に改めて感謝申し上げます。



### 市域全域を対象とした食支援の取り組み

市域全域を対象とした食支援の取り組みでは、(株)ミートモリタ屋、(株)彩、(株)甲和ビルド、テニスガーデン高槻、(株)宮田運輸からご支援をいただいております。

### 「SDGsトレイン 未来のゆめ・まち号」

子どもの居場所づくり事業は2018年度より阪急阪神ホールディングスグループ(株)が行う「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」より助成を受け実施。

同グループが阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト10周年を記念して「SDGsトレイン 未来のゆめ・まち号」を運行。



同グループや国・沿線自治体・協賛企業・市民団体のSDGsの取り組みについて車両ラッピングや車内ポスターで情報発信を行う中で当法人の取り組みについてもご紹介いただきました。





## トピックス -1

マスメディアでの紹介



**「ただいま～と言える子どもたちの居場所づくり」が  
NHK 総合 TV「課題解決ドキュメント」で  
全国放映されました！**

1

### 「子どもたちが安心して元気になれる居場所づくり」を NHK 全国放送局が取材放映

2017年の2月から4月まで約3カ月にわたって取材  
いただいていた「ただいま～と言える子どもたちの居  
場所づくり」が4月30日(日)午前10時5分～48分に  
NHK「地域魅力化ドキュメント ふるさとグングン!」  
として放映されました。



2

### 滋賀県の先進的な取り組みからも学ぶ

取材にあたっては、NPO法人子どもソーシャルワークセン  
ター代表の幸重忠孝さんに事業立ち上げから関わっていただ  
き、滋賀県大津市・米原市での先進的取り組みの見学もさせて  
いただきました。

3

### 番組取材には多くのみなさんの協力が

スタジオ進行は幸重忠孝さん、俳優の風間トオルさん、ぺこ&りゅーちえるさん。番組では、孤食・不登  
校・いじめ・貧困…ひとりぼっちの子どもたちが安心して元気になれる居場所を地域につくりたいという住  
民の取り組みを通じて、富田小学校、第四中学校の生徒さん、子ども食堂に関わったみなさん、学習支援教  
室に通う子どもたちも登場しました。

## 4 「ひとりぼっちのいない町」 Part2

2017年に引き続き、12月から3月の約4カ月にわたって取材いただいていた「ただいま～と言える子どもたちの居場所づくり」の第2弾が2018年4月22日(日)午前10時5分～48分にNHK「課題解決ドキュメント ふるさとグングン!」として放映されました。スタジオ進行は幸重忠孝さん、関ジャニ∞の横山裕さん、ぺこ&りゅーちえるさん。



## 5 中学生が主人公となった取り組み



2017年は、富田地区の「ただいま～と言える子どもたちの居場所づくり」として、地域主体の動きを放映いただきました。

2018年は、その第2弾。高槻市立第四中学校の中学生がこどものひとりぼっちの課題を考える授業として地域のさまざまな場に参画する様子とそれを支える地域の大人の姿を放映いただきました。

## 6 地域・家庭・学校・行政・企業・大学・NPO など 30 を超える団体の皆様のご協力を

2018年放映において当法人はただいま食堂や実践報告会の主催、さらなる子どもの居場所づくりの動きや中学生が主人公となってまちの課題解決を行う際に地域内外の30を超える多職種さまざまな組織を微力ながらコーディネートさせて頂きました。



番組は NHK 地域アーカイブズのホームページからもご覧いただけます。

## 政府（内閣府）広報において放映されました！

政府（内閣府）広報番組「子どもたちの未来のために」  
～地域に根さす支援の現場～



### 1 多セクター協働による包括支援

内閣府からご依頼をいただき、2021年7月に当法人の子どもの居場所づくり事業の一つである「学習支援事業わんぴーす」および「フードパントリー」等についてテレビ朝日映像株式会社に取材いただきました。その様子が内閣府特番としてこの度、放映されました。

### 2 子どもたちの未来のために

コロナ禍で孤立が進む今。子どもたちの暮らしと学びを支える草の根活動が全国に広がっていると言います。そこで、つるの剛士がその支援の現場を訪ねます。

東京都豊島区『いけいけ子ども食堂』の活動と人々の想いを取材。また、板橋区『地域リビング プラスワン』で行われているのは、『おうちごはん』という取り組み。さらに「学び」に対する活動について探るため、大阪府高槻市富田町の『コミュニティースペースNikoNiko』へ。子どもたちを支える活動を通し、日本の未来を見つめます。



(番組公式ホームページより)



### 3 子どもたちを支える包括支援

取材では、タレントのつるの剛士さんが富田地区に来られ、地域に根ざす支援の現場として行政、大学、学校、企業、民間の連携による子どもたちの包括支援をテーマに取材いただきました。



## NHK Eテレバリバラ「水平社 100年」に出演しました！



全国水平社創立100周年に合わせ制作されたNHK Eテレバリバラ「水平社100年」が2022年3月3日、10日に放映され、当法人事務局長が出演しました。

### □ 水平社宣言100年①

「人間は尊敬すべきものだ」

### □ 水平社宣言100年②

「人の世に熱あれ 人間に光あれ」

## 1 「このまちに生まれてよかった」 そう思えるまち

今回の出演では、まちづくりを通していかにして部落差別をはじめ様々な社会課題を解決し次世代の子ども達に「このまちって素敵」「ここに生まれてよかった」と思えるまちをつくってゆけるのか(展望)を短い時間ながらも語りました。

## 2 「人の世に熱あれ 人間に光あれ」

「過酷な部落差別があたりまえだった100年前に誕生した水平社宣言。人間は同情や哀れみの対象ではなく、尊敬すべき存在だと訴えた宣言の理念は、いまでも輝きを失っていない。番組では水平社誕生の歴史を通して、宣言の意義を考える。スタジオには被差別部落出身者など当事者が大集合。当事者が声をあげる意義・支えることの大切さ、「自分を好きになること」など、理不尽な壁にぶつかっているすべての人たちに熱と光を届ける！」(番組ホームページより)

○番組公式HP

<https://www.nhk.jp/p/baribara/ts/8Q416M6Q79/episode/te/KNX4361X2K/>

# トピックス - 4

## NHK かんさい熱視線 / NHK 青森あっぷるワイドにて放映

当法人が高槻市から受託している「高槻市子どもみまもり・つながり訪問事業」が2023年7月1日（金）の午後7時半からのNHK「かんさい熱視線」で放映されました。

「検証・神戸6歳児男児遺棄事件 なぜ命を救えなかったのか」のタイトルで前半は神戸市西区の男児虐待死事件を掘り下げ。

神戸市子ども家庭局への取材のほか、「過去の教訓から虐待を見逃さない体制強化」に取り組んだ千葉県野田市での取り組み紹介に続き、「全戸訪問で事前にリスク把握に努める」高槻市の「子どもみまもり・つながり訪問事業」をご紹介します。

また、2024年3月にはNHK「青森あっぷるワイド」で「未就園児の虐待を防ぐには」をテーマに同事業を取材・放映いただきました。





## 全国に発信し他地域の課題解決の一助に

私たちが願っているのはこの地域でつくる支援の仕組みが他地域の課題解決の一助になることです。この間、様々な場面でのご紹介をはじめ光栄な賞などをいただいています。これらを通じて微力ながら全国に発信を行っていきたいと考えています。



### 日本地域福祉学会「地域福祉優秀実践賞」を受賞

この度、タウンスペースWAKWAKが光栄にも日本地域福祉学会が行われている「地域福祉優秀実践賞」を受賞させていただきました。

この賞は2004年度に地域福祉の優れた実践を顕彰するために設置された賞で今回で第21回目となります。日ごろ大変お世話になっている加納恵子先生（関西大学）よりご推薦いただき受賞する運びとなりました。

今年度6月に開催される日本地域福祉学会第38回大会（東京大会）の授賞式に出席させていただき、その後報告会にて実践報告させていただきます。

このような光栄な賞をいただき感謝申し上げます



## 2 関西大学人権問題研究室紀要論文に実践を掲載

これまでの富田地区および高槻市域の実践について、「高槻市富田地区包摂型のまちづくり-子どもの居場所づくり事業を中心に」、コミュニティ再生事業の取り組みは、「多セクターとの共創による包摂型コミュニティ生成」、市域全域を対象とした取り組みは「居場所の包括連携によるモデル地域づくりに向けたアクションリサーチ」としてそれぞれまとめています。インターネットでもご覧いただけますのでぜひご覧ください。



## 3 『子どもと家庭を包み込む地域づくり』 発刊

京都女子大学の谷川至孝先生、岩槻知也先生からお声がけいただき、それぞれ大津「子どもソーシャルワークセンター」理事長幸重忠孝さんや京都「山科醍醐子どもの広場」代表理事村井拓哉さん、「沖縄ももやま子ども食堂」理事長鈴木友一郎さんなどとともにタウンスペースWAKWAKにおける富田地区の子どもの居場所づくりについて執筆させていただきました。

『子どもと家庭を包み込む地域づくり-教育と福祉のホリスティックな支援』晃洋書房



## 4 『ひとりぼっちのいない町をつくる』 発刊

富田地区及び高槻市域全域を対象とした取り組みを実践書としてまとめ明石書店から出版しました。

監修には志水宏吉（日本教育社会学会会長）、コラムとして学識者のもとより地域関係者、学校関係者、NPO関係者などさまざまな方々から寄稿いただいております。

『ひとりぼっちのいない町をつくる-貧困・教育格差に取り組む大阪・高槻富田の実践に学ぶ』明石書店



## 5

### 多セクターとの共創の活動に対し

### 大阪大学大学院「独創的教育研究活動賞」を2度にわたり受賞

2020年は、多セクターとの共創による「コミュニティ再生事業」の取り組みが大阪大学国際共創大学院による「独創的教育研究活動賞」

（「多セクターとの共創による新たな多文化コミュニティづくりによる共創知の生成」）を受賞。

2021年は高槻市域の取り組みに対し、「多セクターの共創による社会的不利を抱える家庭の要支援状況の可視化によるソーシャルアクション」を受賞しました。



## 6

### 大阪商工信用金庫「社会貢献賞」を受賞

大阪商工信用金庫（本店：大阪市中央区）さまが実施された16回目となる「社会貢献賞」受賞団体に選ばれました。

受賞理由として「誰一人取り残さないまちの仕組みづくりをテーマに多セクターとの共創による活動を産官学協働で長年尽力され、子どもが社会で直面する課題を解決するための教育カリキュラムを学校と地域との協働により構築する等全国的なモデル事業になっている」と過大な評価をいただきました。



## 7

### ティグレ「上田卓三賞」を受賞

2023年11月23日は、起業・経営革新・社会貢献事業を応援するために中小企業者支援パートナー・ティグレさまが実施している上田卓三賞の最終選考会へ。ティグレ（旧中小企業連合会）の創業者・上田卓三さんの名を冠したこの賞は今回で9回目。福祉事業部門で最優秀賞に選ばれ、表彰式ではティグレ橘悦二理事長より賞状と賞金を贈呈いただきました。





# 8

## 国会議員によるオンライン視察・ヒアリングをお受けしました



2022年2月9日(水)午後5時15分より超党派の国会議員で構成されている「休眠預金等活用推進銀連盟（会長：加藤勝信衆議院議員/前官房長官）」による視察・ヒアリングを受けさせていただきました。

視察・ヒアリングは衆議院議員会館会議室とZOOMをつないでのオンライン形式。視察・ヒアリングを受けさせていただいたのは、タウンスペースWAKWAKを含む関西エリア6団体です。

ヒアリングでは各団体から助成事業についての概要説明の後、出席国会議員からの質疑応答形式で進められ、議員連盟からは約30名の衆参国会議員が参加いただきました。

# 9

## 厚生労働省・子ども家庭庁への実践報告

2023年5月18日(木)は、認定NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえさんからご依頼を頂き、厚労省・子ども家庭庁の方々へWAKWAKによる高槻市における「厚労省ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業」の実践について実践報告をさせていただきました。

当法人の実践として、図にあるような「厚労省のひとり親等の子どもの食事等支援事業」、「厚労省支援対象児童等見守り強化事業（高槻市子どもみまもり・つながり訪問事業）」、「むすびえ休眠預金居場所の包括連携によるモデル地域づくり」の3事業を連動させた市域全域を対象とした官民連携による支援の仕組みについて発表しました。



# 支援の呼びかけ 寄付の方法

ご寄付のお願い  
活動へのご支援を  
お願いいたします。

## WAKWAK サポーターになる / 活動を応援する

今社会的に不利を抱えている人だけでなく、そうではない人も子どもから高齢者まで、誰もとりこぼさない地域が必要です。わたしたちは、富田での切れ目のない支援を目指したまちづくりと、高槻市域全体により多くの支援を届ける中間支援としての取り組みの2つのベクトルでさまざまな人たちとこの社会課題に向き合っています。この取り組みは富田をモデルに、高槻市全域、さらに全国へ広がります。

そんな「ひとりぼっちのいないまちづくり」を持続可能なものにするためにWAKWAKサポーターとして一緒に取り組みを応援してください。

サポーター制度の他、さまざまな応援方法をご用意しています。すべての応援についてご登録いただいた方には、年に2~3回発行しているWAKWAK通信等を送付し、活動内容をご報告させていただきます。

## WAKWAK サポーターとして仲間になる！

WAKWAK サポーター（毎月）1,000 円～ / 月

WAKWAK サポーター（毎年）3,000 円～ / 年

支払い方法は、カード各種/Apple Pay/Google Payに対応しています。

※ 株式会社コングラントの寄付プラットフォームを利用しています。

▶お申込み方法：QRコードを読み込むと寄付決済ページが表示されます。

「寄付をする」をクリックするとご希望の金額から簡単に寄付することができます。



## あなたのご寄付でできること

タウンスペースWAKWAKの事業はみなさまのあたたかいご寄付で支えられています。 ※下記は概算です。

### 富田エリア事業なら .....

3,000 円で



子どもの居場所  
1回の運営の支援  
ができます

5,000 円で



困窮家庭の緊急食  
糧支援1世帯分の  
支援ができます

10,000 円で



学びの支援受講生  
1人1ヶ月分の受講  
ができます

### 中間支援事業なら .....

10,000 円で



地域から広がる第三  
の居場所アクション  
ネットワーク会議を開  
催できます

50,000 円で



緊急性の高い地域  
へ1ヶ月分の食支  
援ができます

100,000 円で



市内4か所の子ども  
食堂等へ1回分の  
デザートを提供で  
きます

## そのほか、さまざまな応援方法

### 01 「今を支える」寄付をする！

・タウンスペースWAKWAKへの応援 1,000円～

#### ▶お申し込み方法

##### ■クレジットカードの場合

支払い方法は、カード各種/Apple Pay/Google Payに対応しています。

※ 株式会社コングラントの寄付プラットフォームを利用しています。



QRコードを読み込むと寄付決済ページが表示されます。

「寄付をする」をクリックするとご希望の金額から簡単に寄付することができます。

##### ■銀行振込の場合

下記の口座までお願いいたします。

銀行名 北おおさか信用金庫 富田支店

種別 普通口座

口座番号 0554063

名義人 一般社団法人タウンスペースWAKWAK 代表理事 岡本茂

お振り込み後、お手数ですが、①住所 ②お名前 ③活動報告送付のご希望 ④領収書のご希望を下記のメールアドレスまでご連絡ください。

##### ■WAKWAK事務所へ直接の場合

タウンスペースWAKWAKへご持参ください。

〒569-0814 大阪府高槻市富田町2丁目13-8 ハイツ白菊1F

### 02 ボランティアとして活動に参加する！

参加を希望する活動や、参加しようと思った理由とともに以下のメールアドレスまでご連絡ください。

### 03 食材や備品の寄付をする！

社会貢献活動として支援を届けたいと検討されている法人・企業のみなさま、活動に使えるような物品の支援を検討されるみなさまは以下のメールアドレスまでご連絡ください。

メールアドレス [info@ts-wakwak.com](mailto:info@ts-wakwak.com)



## 支えてくださった企業・団体 / 個人のみなさま

●企業・団体寄付（敬称略・順不同）

 <p>株式会社ミートモリタ屋</p>	 <p>株式会社宮田運輸</p>	 <p>丸大食品株式会社</p>
 <p>ティグレグループ</p>	 <p>阪急阪神 未来のゆめ・まち プロジェクト</p>	 <p>コニカミノルタ労働組合</p>
 <p>ジャトー株式会社</p>	 <p>サンスター株式会社</p>	<p>フードバンク大阪</p>
 <p>子供の未来応援基金</p>	 <p>WAM (社会福祉振興助成事業)</p>	 <p>一般財団法人 日本民間公益活動連携機構 (JANPIA)</p>

 <p>全国子ども食堂支援 センター・むすびえ</p>	<p>高槻市</p>
--	------------

- 個人として寄付をくださったみなさま
- 正会員・賛助会員のみなさま
- WAKWAKサポーターのみなさま（月・年）
- アクションネットワーク参画者のみなさま

## ひと・くらしを中心にすえたまちづくりの要とし



代表理事 岡本 茂

2012年4月にタウンスペースWAKWAKが一般社団法人として設立され早くも12年が経過しました。

設立趣旨でかかげた「すべての人に居場所と出番がある社会」「すべての人がSOSを発信でき、互いに支えられる社会」というミッションは、「ひとりぼっちのいないまちをつくる」という言葉に集約され、子どもから高齢者まで切れ目ない支援を目標に事業を展開しています。言い換えれば誰も排除しない「社会的包摂のまちづくり」です。

2021年度からはこれまでの富田地域事業に加え、新たな市域広域事業にもチャレンジしてきました。現在は、高槻市富田地区をエリアに多様な団体のプラットフォームの役割を担う「富田エリア事業」と「地域から広がる第三の居場所アクションネットワーク」をはじめとする高槻市域全域、大阪府域協働による「中間支援事業」の両輪での活動を進めています。

新たな取り組みとしてはコミュニティスペースNikoNikoを活用した「子どもの居場所づくり事業」や阪大生の持ち込み企画「わくわくワールド」、新型コロナ禍における物価高騰を背景とした「生活応援緊急食料支援」、また富寿栄住宅建替えに伴う新たな自治会設立、認定NPO法人全国子ども食堂支援センターむすびえの「むすびえ・こども食堂基金2023年度」を活用した「わくわく基金」の創設などがありました。

社会の変化に対応し今必要な人に必要な支援を届けるのは「民」であるからこそできる強みでもあります。反面、常に組織や財政基盤の確立に奔走する日々でもあります。

国が提唱する地域共生社会実現に向けた重層的支援体制構築「制度・分野ごとの『縦割り』や『支え手』『受け手』という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会」モデルはまさにAKWAKの事業そのものです。

「ひと・くらしを中心に据えたまちづくり」と「地域課題の解決を目指すまちづくり」相互のアプローチの要となるのがWAKWAKの組織・団体としての立ち位置ともいえます

この間、タウンスペースWAKWAKも多くの民間助成団体・市民団体、地域・学校・企業等多セクターのみなさんおよび多くの個人の方に支えていただいて今日に至っています。

こうした支援はWAKWAKの事業評価の指標であるともいえます。SDGsの理念でもある「ひとりも取り残さない」地域社会実現へみなさまの引きつづくご支援をお願い申し上げます。



あとがき

## -地域に“つながり”の橋をかける-

「こうしてこれからきれいな施設をつくっていくことは大切なことだと思いますよ。ただ、どれだけきれいな箱モノをつくっても地域の人たちの中にある長年の“意識”を超えないと本当の意味でのつながりなんて生まれません。」

これは高槻市長の3期目の施政方針の重点課題の一つとして掲げられた「副都心富田地区のまちづくり」の一環としてある施設づくりに向けたワークショップがあり、その場に参加した際、ある方が問題提起された言葉。これから富田地区のハード面が大きく変わっていく中で、ソフト面（心の部分）へと、これまでもそうだったように絶え間なく、そして、根気強く働きかけをしていくことの大切さをあらためて教わった言葉だった。

そんな中で新型コロナ禍4年間延期していた、地域に住む多世代、子どもから高齢者、障がい者、多様な人たちがごちゃまぜに交流する拠点としての「富田わくわく食堂」を復活することを決めた。

様々な方々の力をお借りしてこの企画を実現化しようとしたのにはクラシックライブなどの文化を通して「地域に“つながり”の橋をかける」という願いがあった。

冒頭にある方がおっしゃった“意識”とは、長年地域の中にある差別意識。見えにくくはなってきたけれど、残念ながら差別意識は根強くある。それが表面化したのが数年前の施設型小中一貫校施策を進める中で起こった差別事象だった。そうした時、差別を止めていく行為も大切。一方で大切だと思うのは、いかに“豊かな出会いを生み出していけるのか”ということ。この取り組みの前身となる北部地震後に立ち上げた「未来にわたり住み続けたい町」の取り組みで願ってきたことも「ここに生まれてよかった。」「こっつてステキなまち」と思える町を描くこと。まちで様々な人たちが「ごちゃまぜ」になって豊かな出会いをしていくこと、そのことを通して結果として差別がなくなっている状態をめざすこと。

この地域では、一貫して地域・家庭・学校・行政・大学・企業等様々な方々の力をお貸りしながら「ひとりばっちのいないまち」をめざしてきた。それは、社会的包摂をめざすまちの姿であり、さらに先には「新しい多文化共生社会」を描いている。その実現化にはまだまだ道は始まったばかり。

当事業は、WAM助成（社会福祉振興助成事業）を受けて実施することができた。また、ここで行った多岐にわたる事業は当法人だけではできないものではなく、地元の老人会や自治会、民生委員、高齢者配食グループ元ひまわりさん、ベテラン保育士さん、文庫主宰者さん、大阪大学をはじめとする学生や留学生の皆さんなど、ここに書ききれないほどの様々なまちの「担い手」の方々のお力があってこそその取り組み。さらにプロジェクトの座長を引き受けてくださった大阪大学教授志水宏吉先生、高田一宏先生をはじめ学識者のみなさま、弁護士の森本志磨子さん、取り組みに協働してくださった高槻市立第四中学校校区の校長先生はじめ先生方、認定こども園の先生方、高槻市の行政の皆様、いつも素敵なイラストと装丁をしてくださっている村越好恵さんのご協力により作成することができた。この取り組みに関係してくださったすべての関係者の皆様に感謝申し上げます。

事業を通じて当法人が微力ながら行っている実践は長年まちづくりを行ってくださった多くの方々からの「過去からのギフト」を「次の世代を生きる子どもたちへのギフト」として大切に手渡していくような営みだと考えています。

本作があなたにとってのギフトとなることも願っています。

2024年3月31日

一般社団法人タウンスペースWAKWAK

業務執行理事兼事務局長 岡本工介

## WAKWAK ができるまで

- 新しい福祉のまちづくり「受ける福祉から担う福祉・共に創る福祉」-

- 1994. 6 「子ども・女性・高齢者・障がい者の人権ネットワーク」を設立
- 2001. 2 高槻富田地域で「新しい福祉のまちづくりプロジェクト」の結成  
(障がい者施設づくり、高齢者・障がい者生きがい事業団、住民参加・在宅サービスの各プロジェクトのたちあげ)
- 2001. 9 社会福祉法人つながり設立準備会結成  
(1700万円を目標に施設賛同基金に取り組み、住民参加の施設づくりのためのワークショップを計10回開催)
- 2003. 4 高槻富田地域に知的障がい者通所支援施設「サニースポット」(定員50名)が開設

- 地域の再生とまちづくりへの新たな歩み -

- 2006. 6 富田まち・くらしづくりネットワーク結成  
(地域一斉清掃・祭り・盆踊りの復活によるコミュニティの再生、富寿栄連合自治会・老人会の再建、富田共同浴場ひかり湯のコミュニティ活用)

- 新たな福祉と人権・協働のまちづくり事業構想に着手 -

- 2010. 9 タウンスペース WAKWAK 事務所開設
- 2011. 12 法人取得へ設立準備会
- 2012. 2 設立総会と一般社団法人認証取得
- 2012. 3 一般社団法人タウンスペース WAKWAK 設立記念シンポジウム開催
- 2012. 4 新たな福祉と人権・協働のまちづくり事業がスタート

## WAKWAK の事業展開

- 新たな福祉と協働のまちづくり事業 -

- 2012. 4 障がいのあるないの垣根を超えるボーダレスアート事業開始  
地域福祉ランドデザイン事業スタート
- 2014 学習支援わんぴーすのスタート

- 社会的企業としての包摂型のまちづくり事業 -

- 2017. 1 事務局強化(新事務局長)と社会的企業として包摂型のまちづくりのスタート
- 2017. 4 「ただいま～と言える子どもの居場所づくり事業」(わくわく食堂・ただいま食堂)スタート  
「社会的養護の子どもたちのバックアップ事業」前身の取り組みの引き継ぎとしてスタート
- 2018. 5 行政の受託に頼らない社会的企業の仕組の確立

- 法人役員体制の強化と新理事(学識経験者)の就任 -

- 2018. 6 大阪北部地震の発災と災害支援の取り組み
- 2019. 7 未来にわたり住み続けたい町「コミュニティ再生事業」の本格着手スタート
- 2021. 6 居場所の包括連携によるモデルづくり事業(全国)スタート

制作：一般社団法人タウンスペース WAKWAK

デザイン・装丁：MURAKOSHI

本事業は WAM 助成（社会福祉振興助成事業）を受けて実施しています。

価格 500 円

この収益はすべて当事業の支援活動へと大切にに使わせていただきます。



**WAM助成**

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業